



2022年3月期 第2四半期決算説明会

日本証券アナリスト協会
2021年11月19日



- 01** **業績ハイライト**
- 02** **業績推移**
- 03** **日本部門Topics**
- 04** **米国部門Topics**
- 05** **2022年3月期業績予想**
- 06** **APPENDIX**

01

業績ハイライト



➤ 連結概況

国内・米国ともにオフィス勤務者の多い業態において売上回復が顕著となる。国内での環境衛生サービスの商品・サービスが業績拡大を更に後押しした結果、期初予想を上回る売上高、営業利益、経常利益および四半期純利益を計上した。

➤ 日本部門概況

緊急事態宣言の延長により、都心部における飲料サービス既存顧客の消費量回復が依然として遅れているものの、出勤抑制が難しい業態の顧客を中心に新規獲得が好調であったことに加え、環境衛生サービスの空間除菌機「ナノシード」や除菌マット・モップ、ダイオーズカバーオールの除菌清掃へのニーズが依然として高く、順調に業績を拡大した。創業53年来過去最高の売上・利益を更新した。

売上高 73億81百万円（前年同四半期比111.6%）

営業利益 6億76百万円（前年同四半期比169.0%）

➤ 米国部門概況

ワクチン接種の普及に伴い、多くの地域で規制緩和、また、一部の地域では完全撤廃されたため、当社顧客のオフィス勤務への移行が進んだ結果、期初予想以上に売上回復が進んだ。

売上高 62億72百万円（前年同四半期比140.8%）

営業利益 ▲36百万円

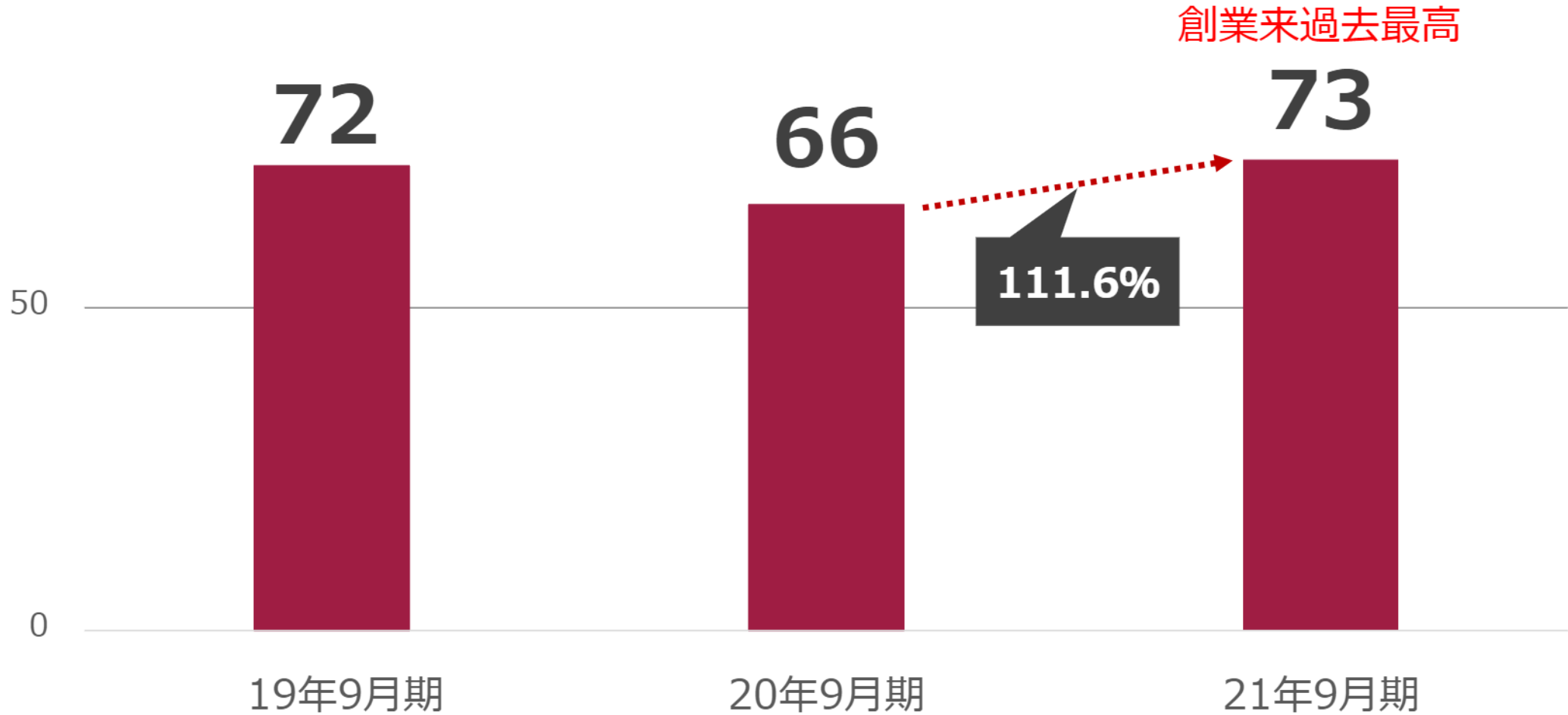
02

業績推移



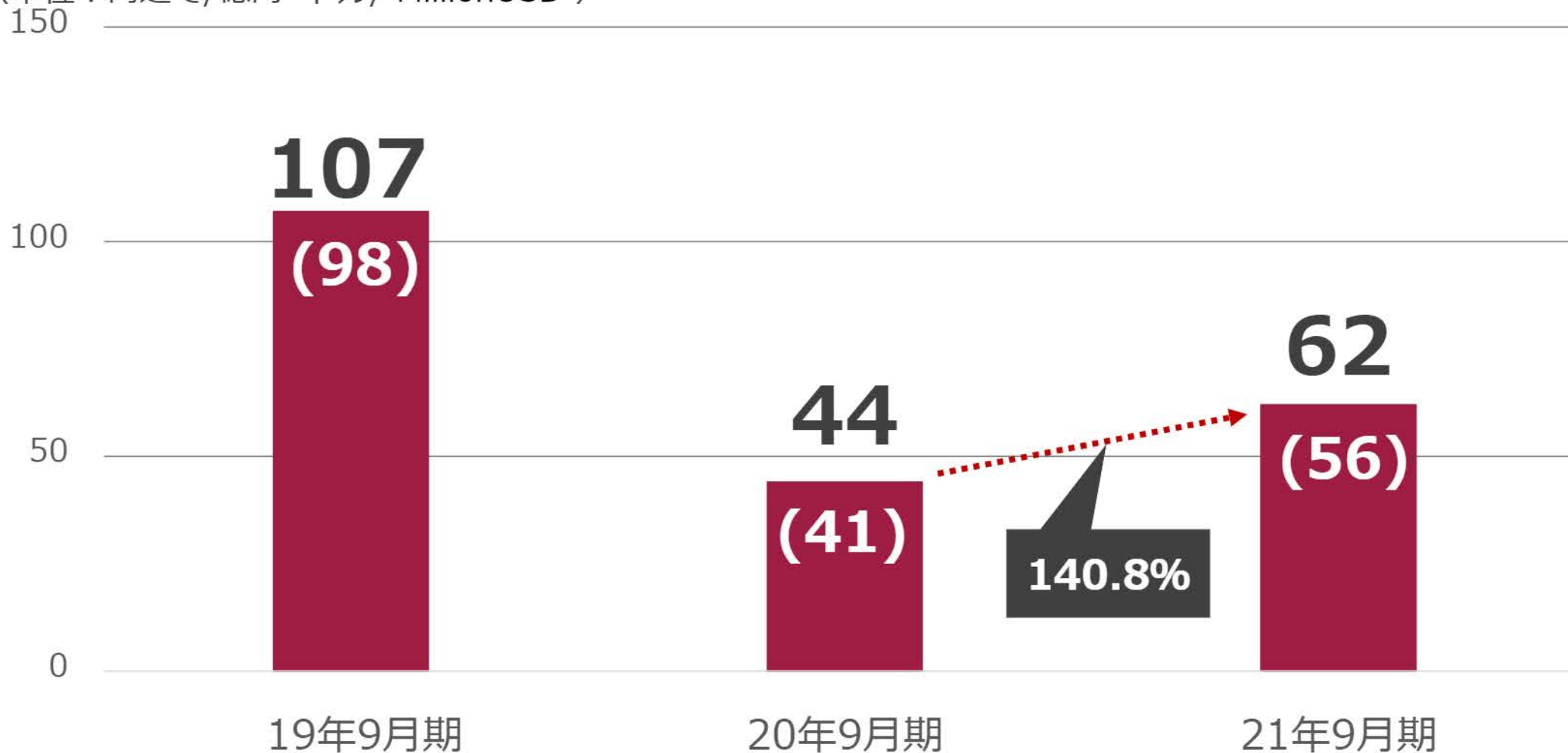


(単位：億円)
100

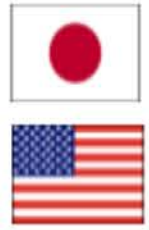




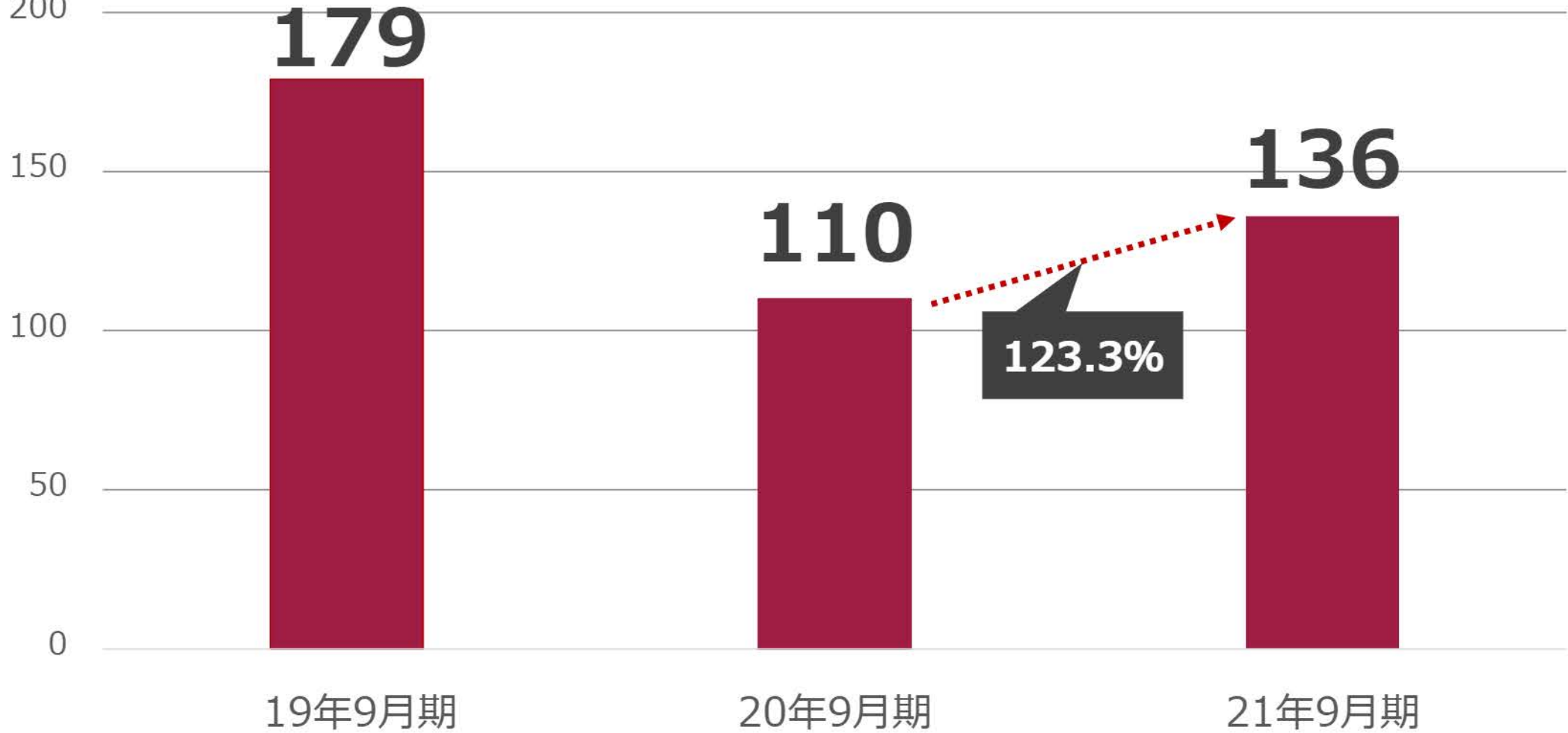
(単位: 円建て/億円 ドル/ MillionUSD)



(2021年9月期 平均レート 1\$ = 110.18円)

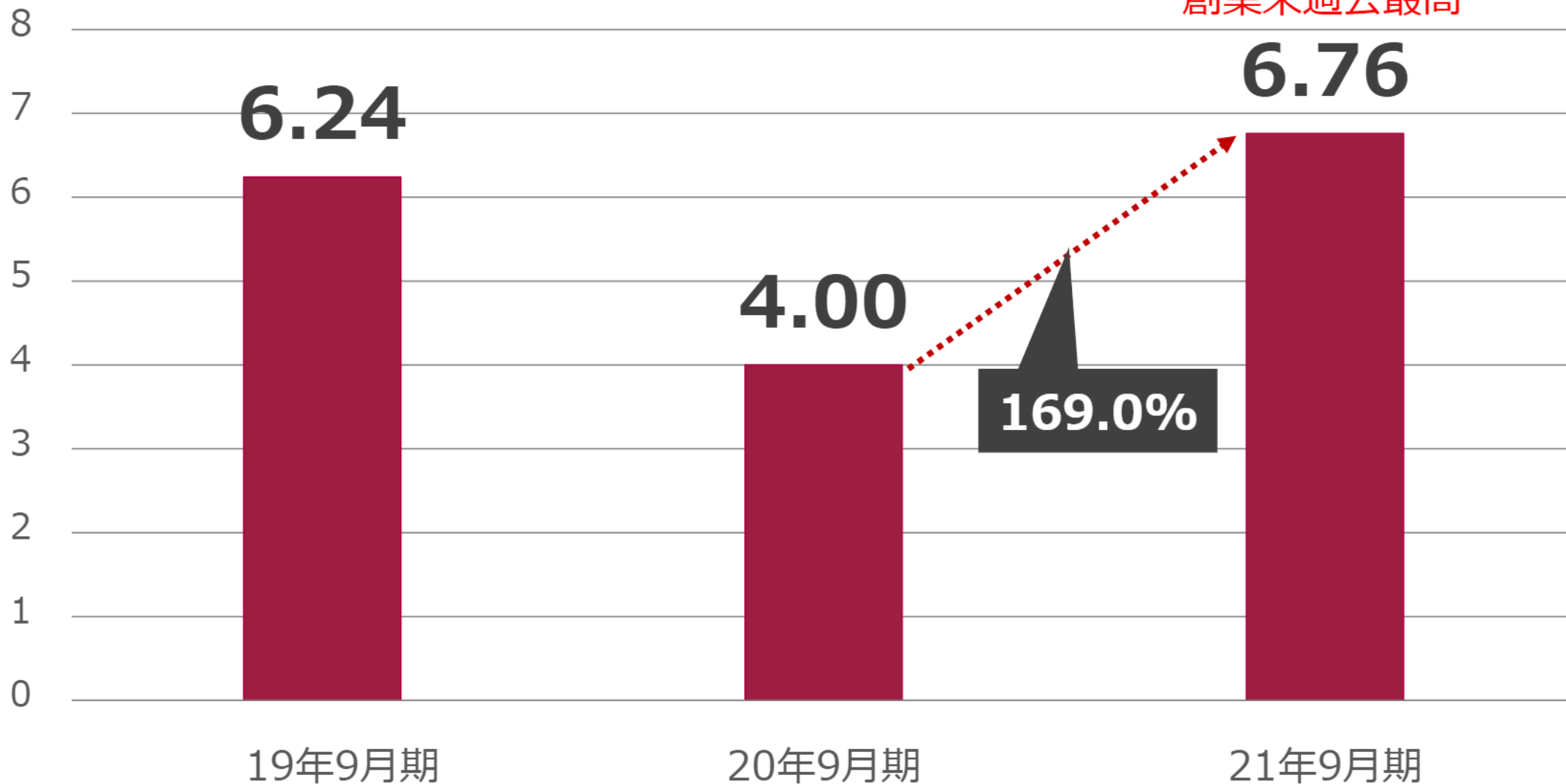


(単位：億円)



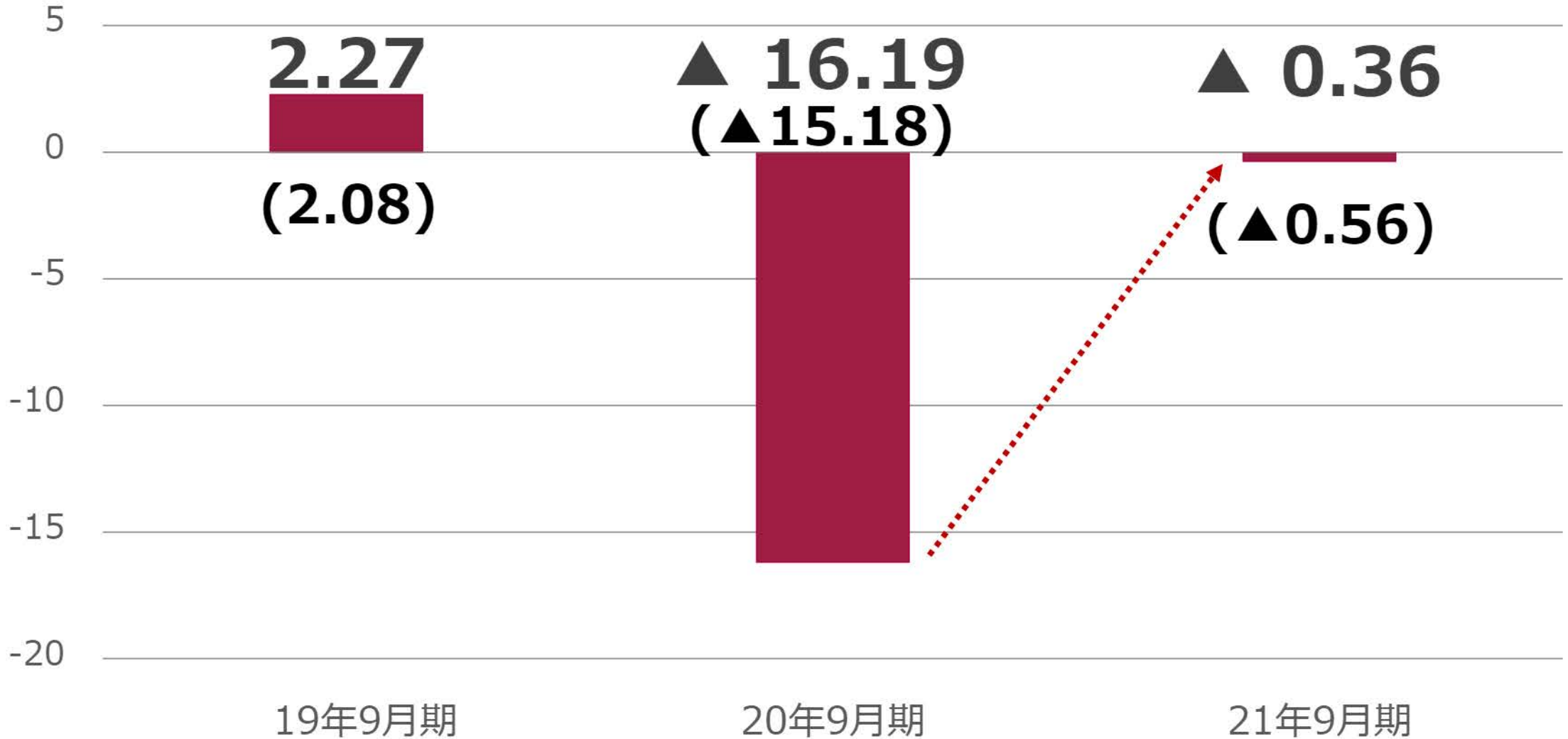


(単位：億円)





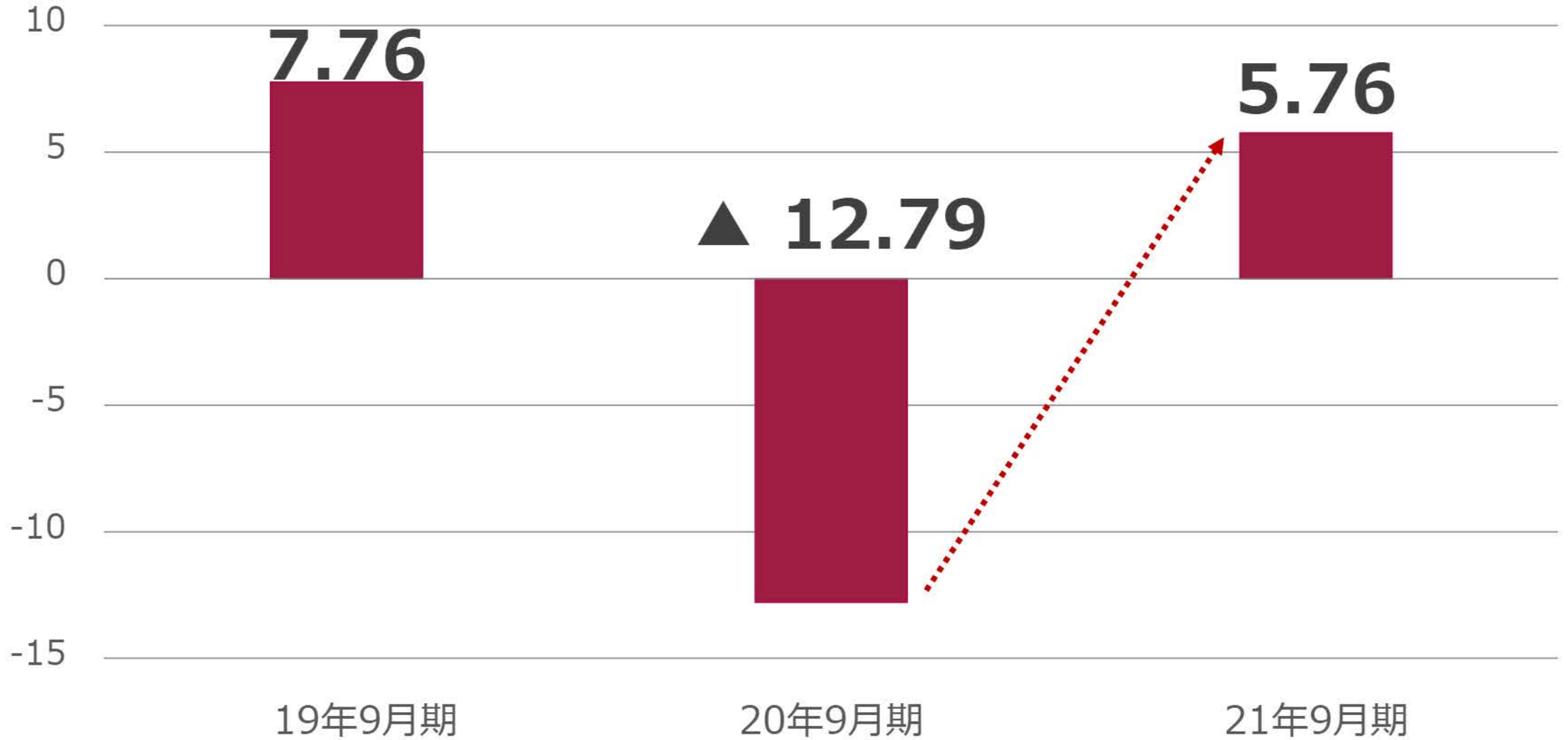
(単位：円建て/億円 ドル/ MillionUSD)

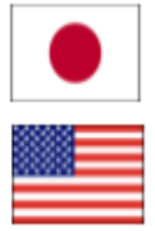


(2021年9月期 平均レート 1\$ = 110.18円)

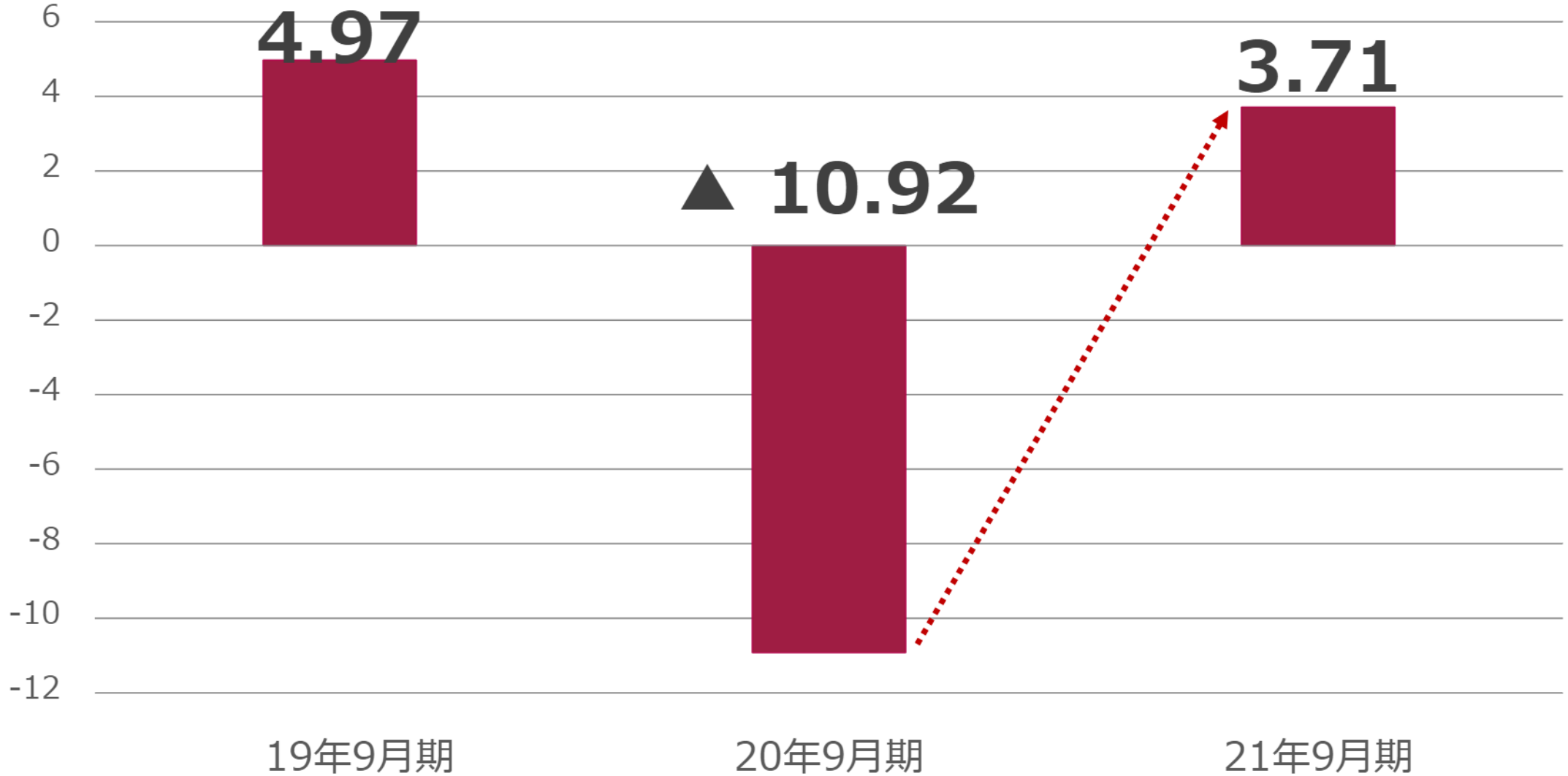


(単位：億円)





(単位：億円)



03

日本部門Topics



➤ 「過去最高額の売上」を達成



環境衛生サービス

空間除菌機「ナノシード」と除菌マット、除菌モップの需要が継続拡大。
高品質が強みの清掃サービス、ダイオーズカバーオールの新規契約も増加。



飲料サービス

物流施設、工場、医療、介護等の既存顧客に於ける消費量がコロナ問題前までに戻り、又、同様の事業形態での新規契約が急増。

➤ 「過去最高額の利益」を達成



固定費

首都圏に於ける管轄エリア、人員配置の見直し、各種決済に於ける100%ペーパーレス化の実現、物流網の再構築によるコスト抑制で合理化を促進。



営業

コロナ感染対策である人流抑制政策の影響を受ける事が少ないWebセールスに積極取り組んだ事で、新規営業担当者の生産性が大幅に向上。

04

米国部門Topics



➤ 慎重な事業運営を継続し、引き続き経費削減を実施



従来型OCS事業

レンタル売上が全体売上に占める比率が高く、オフィス勤務への移行が進む米国郊外の顧客が多いことから相対的に安定した事業運営。

プレミアム型OCS事業

オフィス勤務への移行が進んでいない米国都市部の顧客が多く、売上の回復はやや遅延しているものの、利益は堅調に回復しており、アフターコロナでは引き続き成長余地は大きい。

05

2022年3月期 業績予想



➤ 通期予想 売上高9.74億円増 当期純利益4.11億円増

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	当期純利益
前回予想 (A)	27,676	568	318
今回修正予想 (B)	28,651	1,123	729
増減額 (B - A)	974	554	411
増減率	3.5%	97.6%	129.4%

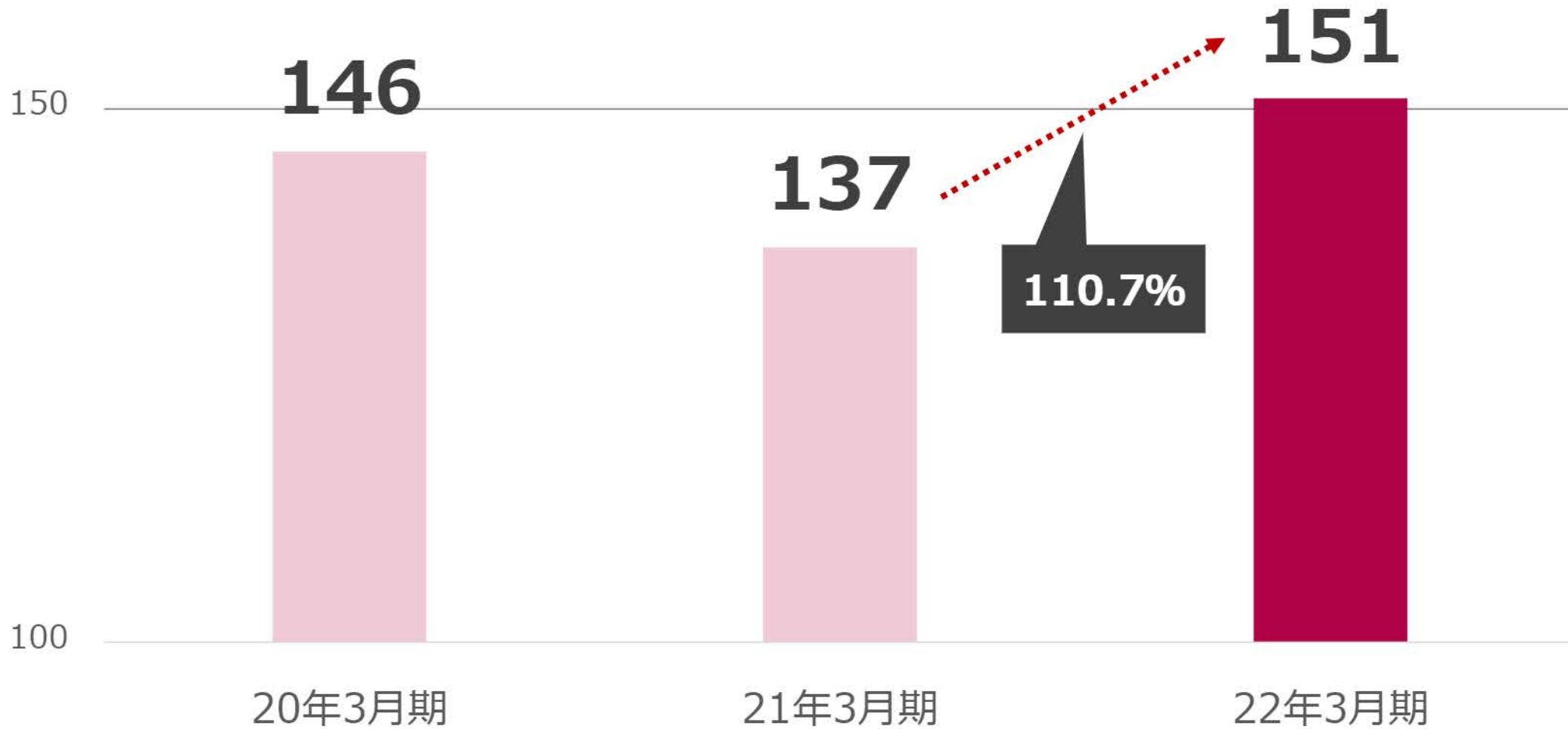
➤ 日本部門

日本国内においてはワクチン接種が進み、足元の感染状況が落ち着きを見せている一方で、冬場における再度の感染拡大を完全に否定することは出来ず、人流抑制、出勤抑制、等々の感染防止政策が発令される可能性が残されている事から、業績予想については据え置いた。

➤ 米国部門

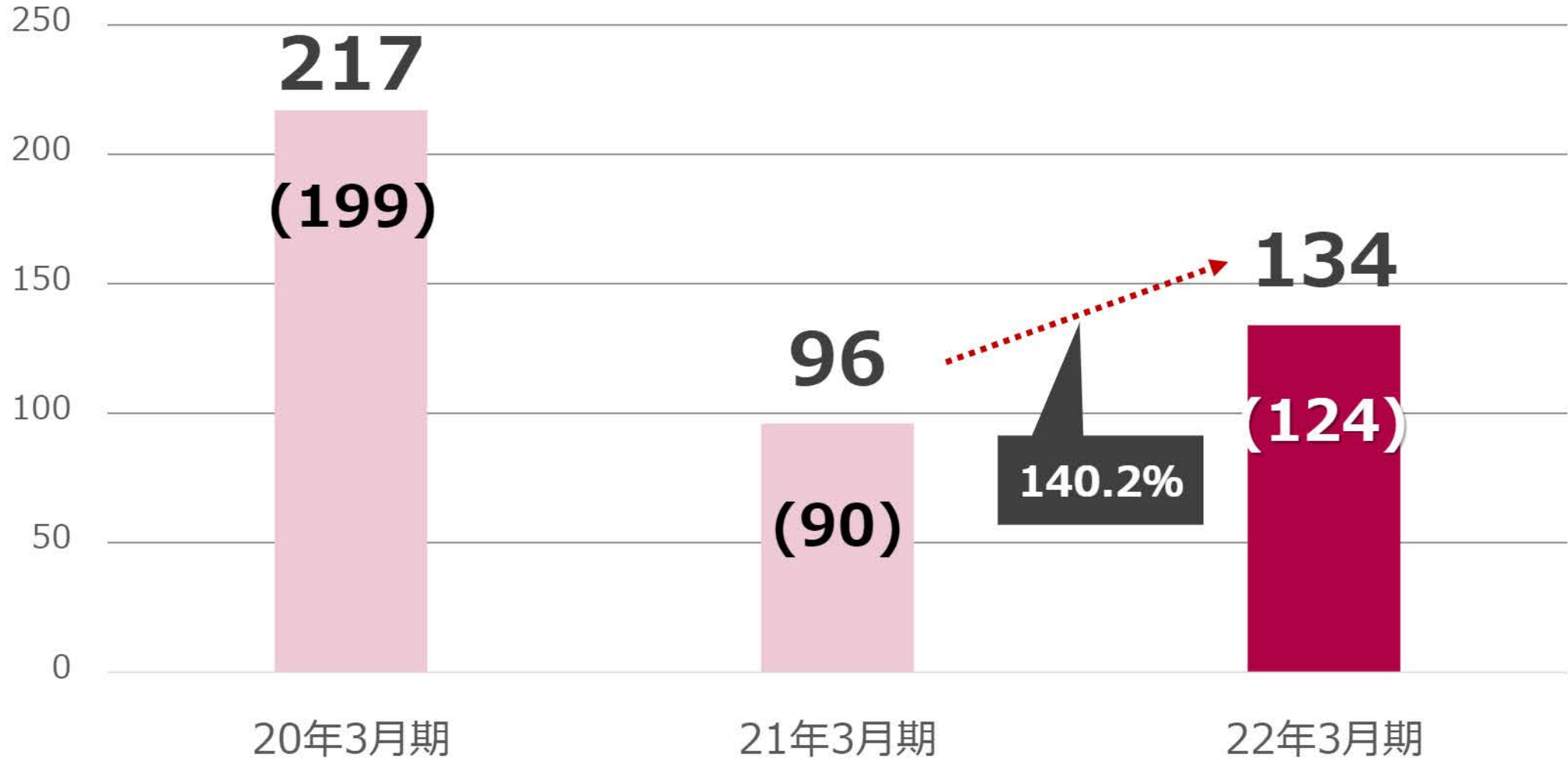
米国内においては今後感染再拡大等が日本同様に懸念されてはいるものの、ワクチン接種の普及に伴い、多くの地域で規制緩和され、一部の地域では完全撤廃された。このため当社顧客のオフィス勤務への移行が進んでおり、米国部門の業績は期初予想より上方修正している。

● (単位：億円)





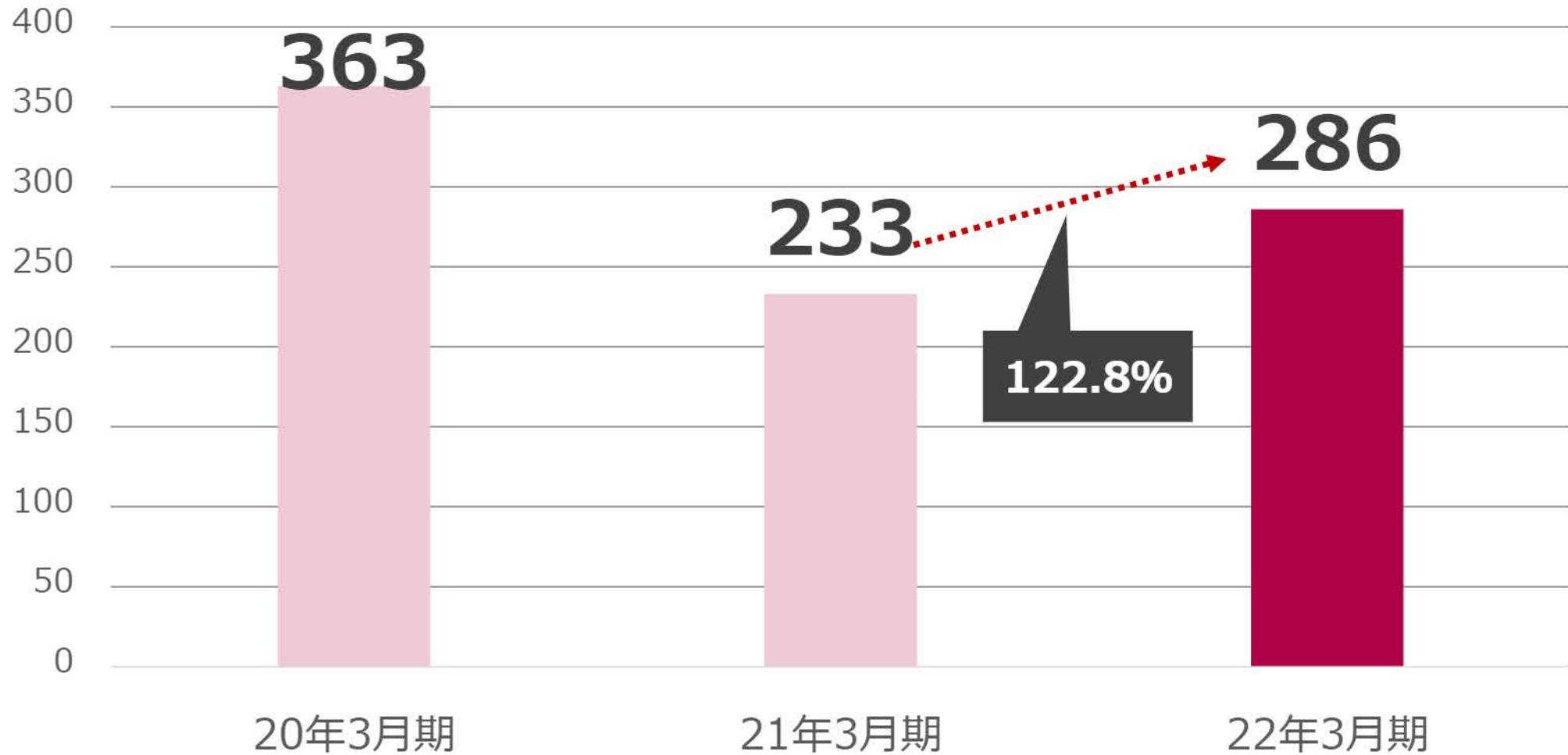
(単位：円建て/億円 ドル/ MillionUSD)



(2022年3月期 平均レート 1\$ = 108円)

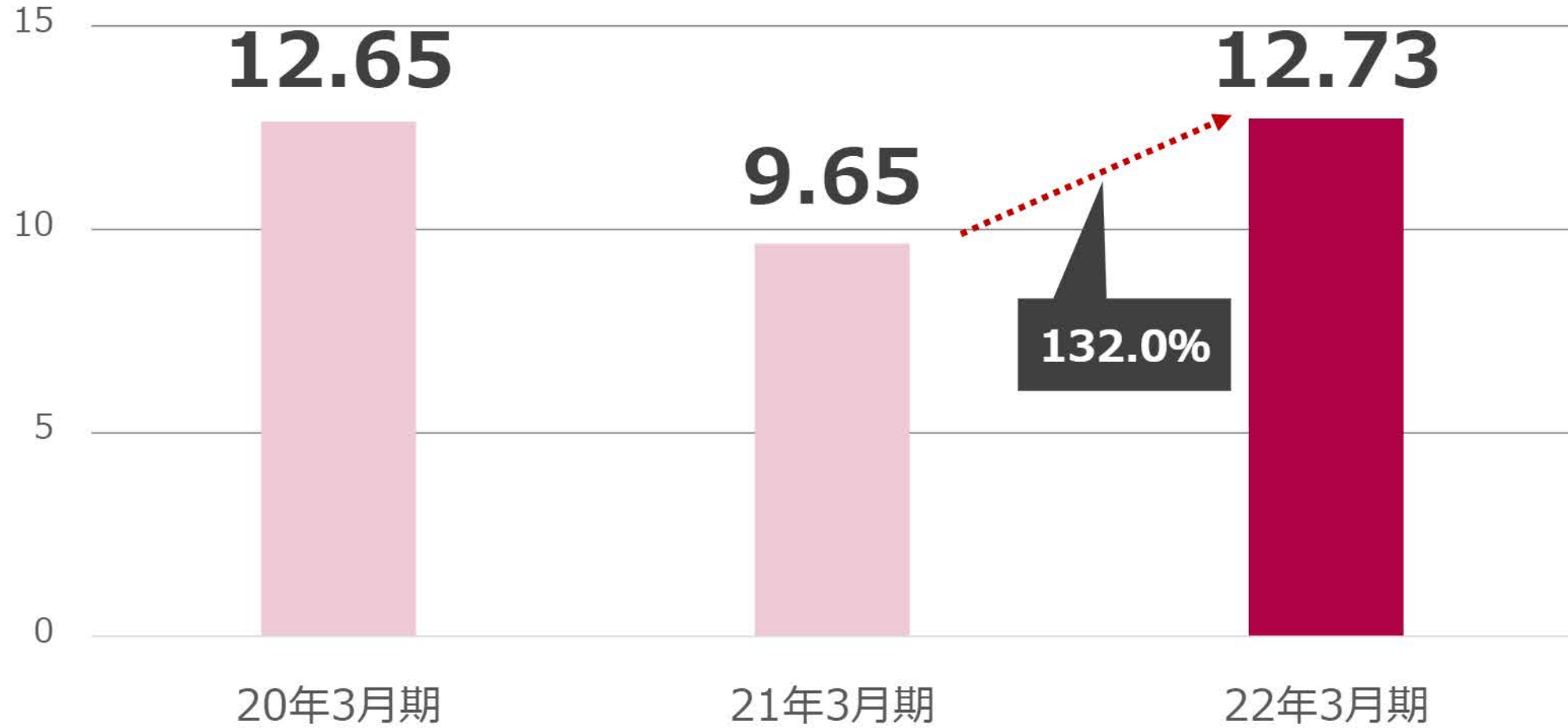


(単位：億円)



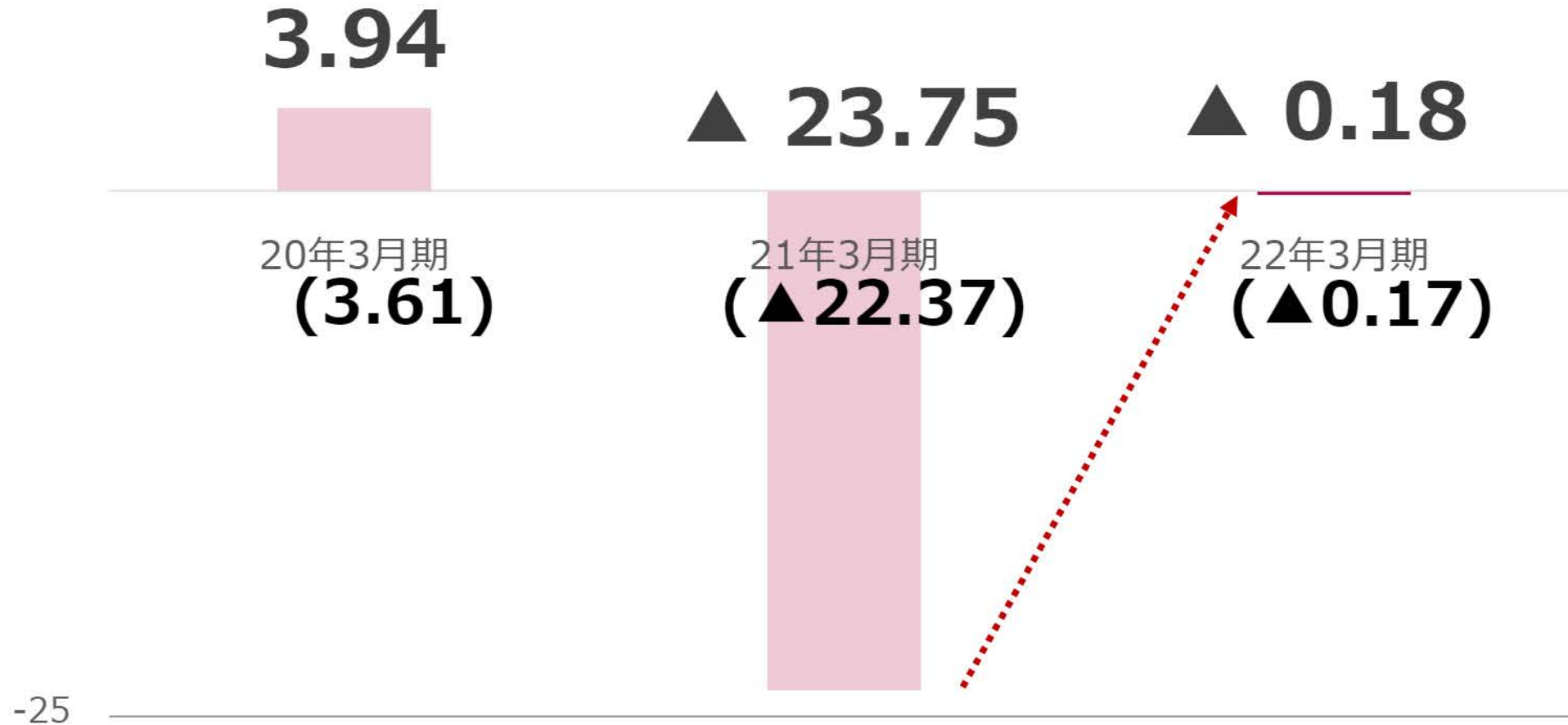


(単位：億円)

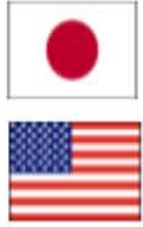




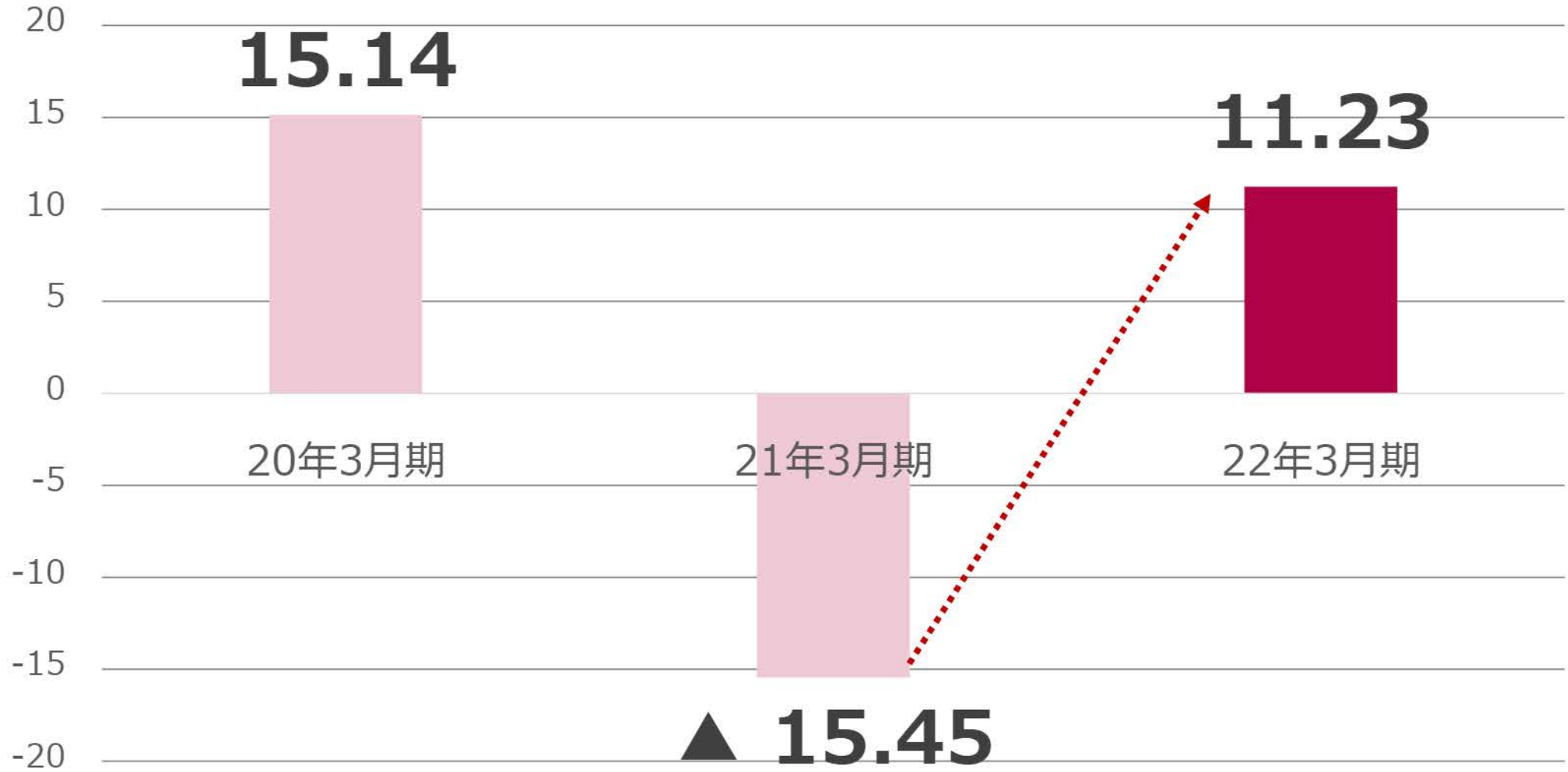
(単位：円建て/億円 ドル/ MillionUSD)

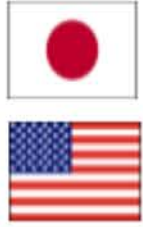


(2022年3月期 平均レート 1\$ = 108円)

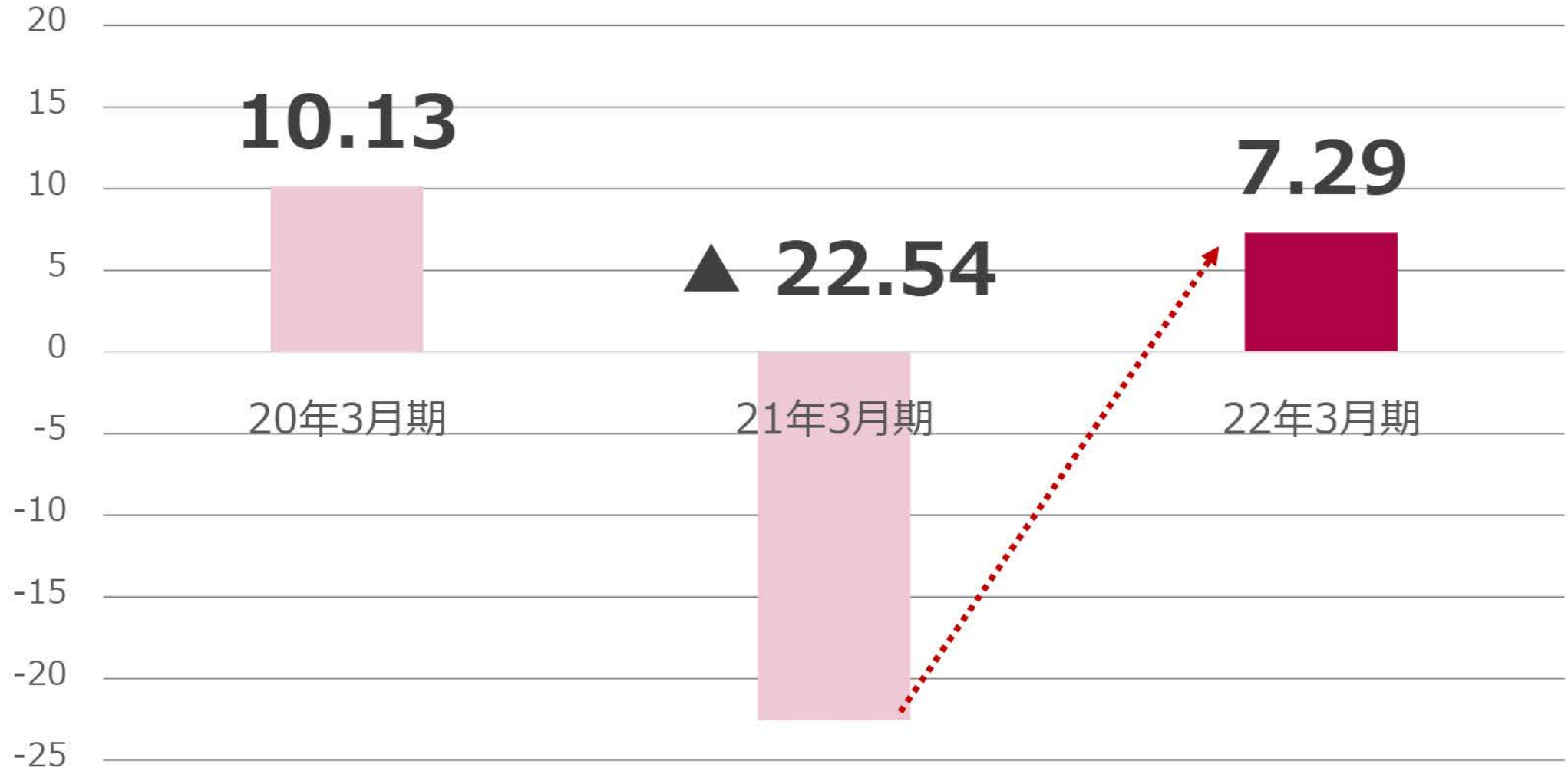


(単位：億円)





(単位：億円)



06

APPENDIX



➤ 配当政策

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の1つとして認識しております。安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努めるとともに、配当につきましては、以下のとおり安定配当をベースとした業績連動型の方式にしております。

利益還元方針	
普通配当金	原則として急激な変化に伴う業績悪化時を除いて、年15円を安定的にお支払いたします。
特別配当金	業績に連動する部分として、経常利益に一定の乗率（55%）を掛けて、求めることとします。これにより求められた金額の30%に相当する金額が普通配当15円を上回る場合に、これを特別配当として加算してお支払いたします。

➤ 配当状況

年間配当	
2021年3月期	—
2022年3月期 (予想)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 1株当たり配当金 15円 (普通配当金 15円) ➤ 配当利回り 1.4% (2021年11月16日終値) ➤ 予測レート 1ドル = 108円

➤ 株主優待制度

毎年9月30日現在の株主の皆様に対して、以下の基準により当社製品を贈呈しております。

所有株式数	優待内容
300株以上 1,000株未満	100杯分のコーヒー
1,000株以上	400杯分のコーヒー

商 号	株式会社ダイオーズ
証券コード	4653
創 業	1969年6月
代 表 者	代表取締役社長 大久保 真一
本 社	東京都千代田区丸の内一丁目7番12号 丸の内サピアタワー14階
資 本 金	10億51百万円 (2021年3月31日現在)
事業内容	事業所向けトータルサービス事業を営む連結子会社 2 社の純粋持株会社
売 上 高	233億23百万円 (2021年3月期 連結)
経常利益	▲15億92百万円 (2021年3月期 連結)
従業員数	1,258名 (2021年3月期 連結 フルタイムー換算)
決 算 日	3月31日